

第2章

Day1に向けた課題から考える 企業統合後の内部監査体制 構築における重要論点

有限責任監査法人トーマツ

藤澤 慶晃

有限責任監査法人トーマツ

近藤 貴斗

【この章のエッセンス】

- 統合初日(以下、「Day1」という)に向けて、グループ横断的な論点から優先的に検討することが肝要である。
- 会社における内部統制の考え方の根本である、内部統制基本方針を優先的に検討する。
- 監査役やリスク・コンプライアンス部門などと緊密な連携を行うことで、グループ全体の内部統制を向上させることができる。

はじめに

前章では、グループ内部監査体制の各パターンのメリット・デメリット

トを解説した。本章では、筆者の実務経験をベースに、企業統合後の内部監査体制の構築における論点のなかで重要な話題を取り上げ、検討する。なお、本章における企業統合とは、持株会社化における子会社再編または新設合併による統合スキームを想定している点にご留意いただきたい。

Day1に向けた課題の整理

企業統合にあたり検討する論点は多岐にわたる。内部監査体制の構築というテーマにおいても、どこに内部監査部門を設置するのか、人員はどれくらい必要なのか、リスク・コンプライアンス部門とどのように連

携するのかなど検討課題は多い。

Day1以降も滞りなく業務を行うために、限られた時間のなかで、効率的に議論を行い、1つ1つ着実に課題を解決したい。そのためには、Day1までに対応すべき課題とDay1以降に対応すればよい課題を明確にし、将来どの時点で、どうなっている必要があるのか(どうなっていたいか)を整理する必要がある。

図表4は、例示として、Day1までの検討課題とDay1以降でもよい課題に分類したものである。Day1に向けては、業務を行ううえで最低限決めておく必要がある事項、たとえば内部監査体制の検討や内部監査計画・内部監査規程の作成などを行う。一方で、監査手続の見直しや監査調査の様式の統合などは

(図表4) 企業統合における内部監査体制構築のための検討課題例

	Day1											
	Day1までに対応				Day1以降に対応							
	3月	4月	5月	6月	20X1年							
					7月	8月	9月	10月	11月	12月		
検討課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓内部統制基本方針・コーポレートガバナンス体制素案検討 ✓内部監査機能配置の検討 ✓内部監査業務の統合方針検討、および関連規程作成 ✓J-SOX評価方針・範囲・ツール類・年間評価計画等の検討、会計監査人との協議 ✓内部監査計画作成 ✓子会社監査役の設置要否検討 				<ul style="list-style-type: none"> ✓規程類に沿った運用の開始 ✓内部監査業務に係る業務プロセス、監査手続・報告書等のツール類の詳細検討 ✓その他、必要な規程・基準・マニュアル等の作成・更新 ✓リスク・コンプライアンス部門と連携したリスク評価方法の見直し、重要リスク定義の検討 							

(出所) 有限責任監査法人トーマツ作成